

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回川島町総合振興計画審議会	
開 催 日 時	令和2年9月30日(水)午後2時40分から4時	
開 催 場 所	川島町役場 多目的室	
議 題	(1) 第5次川島町総合振興計画 後期基本計画評価について (2) 第6次川島町総合振興計画及び第2期川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について (3) その他	
公開・非公開の別	公 開 (傍聴者1名) ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委員	西村委員、石島委員、鈴木治委員、今井茂夫委員、川島委員、利根川委員、遠山昌代委員、早坂委員、猪鼻静委員、今井敏義委員、堺委員、遠山豊委員、猪鼻彩子委員
	事務局職員	政策推進課 藤間課長、友野主幹、喜多川主査、品川主任
配布資料	会議次第、資料1~3	
審議会等の内容・概要		
1. 開 会 2. 会長あいさつ (事務局より会議の開会にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言委員名は記載しない旨で委員より了承を得る。) 3. 議事 会 長：議事録署名委員を指名する。川島委員、利根川委員を指名する。 (1) 第5次川島町総合振興計画 後期基本計画評価について 事務局にて資料1を用いて説明。 会 長：計画全体の評価に関する説明であったため、意見というのも難しいかと思うが、		

お気づきの点があれば発言をお願いしたい。

私から一点。第4章の産業分野に係る評価について、C評価の割合が突出して高い。C評価を減らすよう努めろという主旨ではなく、やるべきこと、やらなければいけないこと、やれることを優先順位に基いて整理できずに消化不良になっているのではないかということ。C評価の比率は高いが、町として優先順位の高い施策はきちんと成果が出ているという状況がわかるなら良い。施策の難易度という点も考慮すると、必ずしもC評価が少なければ良いということではない。町民にとっての緊急性や重要性というものを踏まえた上で、優先順位をつけて施策を実施していくという姿勢が、社会課題の解決には必要である。次の計画に向け、意識して策定を進められたい。

委員：非常に項目が多く何をやっているのかわからない印象である。私もかつて評価に携わってきたが、数値化を意識していた。ここでは達成度などと記載されているが、何を以てAやBと評価しているのかが見えてこない。感覚としてはわかるが具体的ではない。同じ施策名で一方ではA評価、一方ではB評価という記述もある。基準を明確にして評価してもらいたい。

事務局：これまでは、行政活動を全て網羅する計画を策定してきたため、非常に施策数の多いものとなっていた。結果、ご指摘のとおり何をやっているのかよくわからない印象になっている。また、評価の点で言うと、現行の第5次計画が開始した頃、全国的に行政活動の評価が始まったため評価の経験が浅い。施策をどのように評価するかということは多くの自治体にとって課題となっている。これらのことから、次の第6次計画では、町としての優先順位、どこに力を入れてまちづくりを進めるのか明確にわかるようなものにしていきたい。また、評価についても、ご指摘のとおり数値化された評価指標の設定に努めていきたい。

会長：評価が難しいというのはその通りだが、誰がつけても同じ評価になるというのは評価の原則である。第6次計画では意識して取り組んでいただきたい。

委員：4章の産業分野のC評価が多い具体的な原因は。

事務局：一つ目の原因としては、資料の中でも触れているが、第5次計画ではインターチェンジ南側地区開発の推進を最優先事項として取り組んできた結果、当該分野におけるその他の施策に注力できなかったことによる。二つ目は、全国的な傾向でもあるが、担い手不足に起因される農家の減少により、農業の推進が図れていな

いことによる。

会 長：中間報告とあるが、次に報告があるのはいつ頃か。

事務局：来年度に入ってからである。今年度末までの計画であるため、今年度を実施した施策の結果を反映して提示する。

会 長：同じ形式で提示される認識でよいか。

事務局：見込みの通りである。前期計画も同様の形式で評価している。前後期の比較という点から、同じ形式で評価する。

委 員：川島町は、水害リスクというのは常に意識する必要がある。ハザードマップを見ても安全な場所はない。災害対策は今後も力を入れて進めていただきたい。

事務局：次の第6次計画でも、災害対策は重要施策として位置付けていく。

会 長：行政学の中でも評価というのは問題になっている。年度が変わって評価が終了した時点で次の計画はもう動き始めているため、フィードバックはできているのか、という点について常に議論されている。今回、非常にいいタイミングで中間評価をしている。年度が終了してからの評価を正式なものにするという固定観念に囚われることなく、この段階で寄せられた意見は次の計画に反映するよう努めていただきたい。

(2) 第6次川島町総合振興計画及び第2期川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

事務局にて資料2を用いて説明。

委 員：第6次計画では、読み手にわかるような目標人口を提示するのか。人口〇万人に伸ばすなど。

事務局：現時点では目標人口を提示する想定は無い。総合戦略も兼ねた計画となることから、人口ビジョンを踏まえて策定する必要がある。このため、2060年までの目標人口は意識しつつ、第6次計画では現状をシビアに捉えた推計人口を念頭に策定していきたい。夢を語る計画ではなく、現実的な計画となるよう進めていきたい。

委 員：土地利用構想図についてだが、現状では田園居住系地域を緑で着色している。感覚の話だが、森の中に住んでいるような印象にならないか。元気で明るい印象が持てるよう着色してもらいたい。次に、そろそろ川島町は、「農業」と「農家」を分けて考えた方が良い。「農家」は既存集落や農地にも置き換えられる。農業は川島町の伝統産業との認識が強いようだが、町外から転入してきて農業を始めるとも良い

のだから、農家に固執するべきではない。最後に、町内に住んでいる方にも都市型の生活をしている人は多い。ほとんどの方が都心に通勤し、買い物に出かけ、都市型の生活をしている。その点にも留意して計画策定を進めてもらいたい。

会 長：着色については、色弱特性にも気をつけてもらいたい。ユニバーサルデザインとなるよう注意が必要である。

事務局：土地利用構想図について、ご指摘の内容について再度検討する。

委 員：基本計画について、「まもる」の章の中で高台避難とあるが、町外避難の方が良いのではないかと。今回策定する計画は、この「まもる」の章を充実させていただきたい。川島町の生命線である。現時点では重要性が伝わりづらいので、再度検討してもらいたい。

事務局：ご指摘の内容について、今後改めて検討する。

委 員：人口減少対策については単に人口を増やすという視点だけでなく、町民の質を上げるということも意識してもらいたい。質が高まった結果、人口が増えていく例はある。また、緑や自然を豊かにするという考え方にも注意が必要である。こんなに自然が多くあるのに緑を豊かにするというのも違和感がある。企業の敷地内に木々を植えたりするが、増やし過ぎると管理に苦勞する。産業振興の妨げにならないよう、程々に考えるべき。もう一点、町内に「生涯学習推進のまち」との看板があるが、具体的に何をしているのか。例えば、英検や漢検、そろばん等の資格を川島町民は多く持っていることを特長にするという手もある。検討していただきたい。

事務局：ご指摘及びご提案の内容について、今後改めて検討をする。

委 員：「まもる」の章に、「高齢者や障がいのある方を含め」という記述がある。弱者を守るという意味合いの表現だと思うので、言葉の弱者である外国人についてもここに加えていただきたい。もう一点、主な施策に「国際化の推進」を位置付けているが、いつまで国際化を目指すのか。現時点で何百人という外国人が住んでいるし、今後感染症の影響が落ち着いて企業が雇用に力を入れれば、いつ外国人が千人を超えてもおかしくない。一緒に生活をしているのが当たり前の時代に「国際化」と言っている場合ではない。外国人との共生を当たり前のことと捉え、改めて検討していただきたい。

事務局：ご指摘の通りと考える。改めて検討し、施策名を修正する。

会 長：多文化共生という表現など、同じ場所にいることを前提に検討してもらいたい。

委員：第5次、6次計画とインターチェンジ南側地区開発に重点を置いている。進捗及び今後の方向性についてどの程度示されるのか。我々委員としても、一定の情報がないと良い悪いの検討ができない。

事務局：インターチェンジ周辺開発について、北側地区開発は全て完了し、町の税収にも好影響を与えている。その次の段階ということで南側地区開発を推進しているところであるが、農業振興地域であり優良農地となっていることから調整がスムーズに進んでいない状況である。方向性については、具体的に何年後というのは地権者等を含めた調整の都合上なかなか明確にご提示できないことをご理解いただきたいが、第6次計画の期間中には完了する方針である。

会長：総合振興計画に位置付けることで調整が進むことが想定される。しかし、この計画は実施計画ではない。総合振興計画というのは全体の方向性を示すものなので町の考え方を建設的に盛り込んでいてもらいたい。

会長：基本理念についてだが、こちらは単語単位でも良いのではないかと考える。例えば、明治大学は建学の精神を「権利自由、独立自治」、理念を『個』を強くする大学」としている。短くて伝わる表現が良い。ところが、多くの自治体はきれいな表現を並べ、長く、わかりにくくなりがちである。理念とは本来色々と長く述べるものではない。ぜひ、簡潔な表現で作成することを目指してもらいたい。


事務局：その他、意見があれば事前に配付した様式に記入し、事務局に提出していただきたい。

(3) その他

事務局にて資料3を用い説明。

事務局：町民アンケートを9月24日（木）に発送している。アンケート結果は、検証を行った上で第6次計画に反映する。今後、審議会で結果を報告する。

4. 閉会

署名	川島和春 
	利根川洋治 